



32 五十嵐三次《牡丹螺鈿棚》

一基

昭和八年（一九三三）木製漆塗、螺鈿、蒔絵  
三三・五×九六・二×六五・〇

螺鈿の輝きと赤と黒の色の対比が印象的な棚である。中央奥の背板には尾長鳥の形の透かしを付ける。外側はベンガラを混ぜた漆塗りとし、内側は黒漆塗で、正面扉中央は丸く大きく黒漆地として、螺鈿により牡丹唐草文を表している。螺鈿はアワビの貝殻を薄く加工したものを用い、牡丹の花心は蒔絵による。螺鈿技法や文様、金具の形や装飾など、朝鮮半島に伝統的に伝えられてきた工芸品のさまざまな要素に着想を得ていると考えられる。

五十嵐三次（生没年不詳）は富山県の出身。大正三年（一九一四）に東京美術学校漆工科を卒業、後に農商務省の技師として朝鮮半島に渡り、鉄道車両の塗装や、朝鮮半島における漆樹の植栽や漆液の生産に深く関わっていたことが知られる。昭和七年（一九三二）に京城で開催された第十一回朝鮮美術展覧会において、《螺鈿漆器花台》を出品して特選を受け、翌年の第十二回同展において本作を「漆器牡丹文棚」の名称で出品し、宮内省の買上げを受けた。

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s ハーマン・ヘイジ — 光と影の造型美  
三の丸尚蔵館展覧会図録  
No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十七年九月十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan